

- 三菱自動車、電気自動車「i-MiEV」「MINICAB-MiEV」のブレーキに不具合があるとしてリコール 09年7月4日～19年7月24日に生産した1万9799台  
ブレーキブースターに負圧を発生させる電動ポンプの防水構造が不適切な為、使用過程にてポンプ内部に水分が侵入することがある。その為、電動ポンプの内部が腐食し、ポンプの性能が低下して、最悪の場合、ブレーキ警告灯が点灯するとともに警告音が鳴り、ブレーキペダルの操作力が増大し、制動距離が長くなる恐れがある。
- ルノー・ジャポン、「メガーヌRS」のエンジンオイル油圧調整用ソレノイドバルブに不具合があるとしてリコール 18年1月23日～19年4月24日に生産した743台  
エンジンオイルの油圧を調整するソレノイドバルブの配置位置が不適切な為、エンジン内で発生した微細金属がノズル内部に入り、バルブを固着させることがある。その為、油圧調整不良となり、油圧警告灯が点灯したり異音が発生し、最悪の場合、エンジンが破損する恐れがある。
- 三菱ふそうトラック・バス、「エアロエース」「エアロクイーン」のリッド用ダンパーに不具合があるとしてリコール 17年6月9日～19年8月28日に生産した1634台  
ドラック及びエンジンリッド用ダンパーのボールスタッドの締付けトルク指示が不適切な為、ボールスタッドが過大なトルクで締付けられたものがある。その為、リッドの開閉を繰り返すことにより、ボールスタッドが緩んでダンパーが外れ、最悪の場合、リッドが全開状態を保持出来ず、落下する恐れがある。
- 日野自動車、「セレガ」・いすゞ自動車「ガーラ」のクラッチスイッチに不具合があるとしてリコール 05年8月26日～19年7月29日に生産した1万7295台  
クラッチスイッチの車両への取付角度が不適切な為、可動接点用シャフトとリターンコイルが擦れて発生する摩耗粉が接点の表面に付着することがある。その為、クラッチをつないだ際に導通不良となり、補助制動装置が作動しない恐れがある。
- トヨタ自動車、「コースター」・日野OEM「リエッセII」等計4車種のハザードランプに不具合があるとしてリコール 17年1月6日～19年5月13日に生産した8833台  
ハザードランプの電気回路において、ヒューズ容量選定が不適切な為、頻繁に使用した場合、ヒューズが作動時の電流で劣化し、断線することがある。その為、ハザードランプやウインカーが作動しなくなる恐れがある。
- スズキ、「パレット」などのブレーキホースに不具合があるとして再リコール  
16年4月7日付けで、スズキ「パレット」・日産OEM「ルークス」の2車種でリコールを届け出していたが、今回マツダOEM「フレアワゴン」を追加。生産期間も08年1月9日～11年6月7日までとしていたが、13年2月26日に拡大。対象台数は約20万台増え、合計51万7316台となった。  
前輪ブレーキホースの長さが不適切な為、ブレーキホースに引張力が発生し、ホース内部に亀裂が発生することがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、亀裂が広がり、ブレーキ液が漏れて警告灯が点灯し、最悪の場合、制動力が低下する恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、「Eクラス ステーションワゴン」等計13車種のリアスポイラーに不具合があるとしてリコール 16年12月9日～19年5月9日に輸入した8405台  
テールゲートのスポイラー組付け作業が不適切な為、適切に固定されていないものがある。その為、高速走行時にスポイラーがテールゲートから外れ、最悪の場合、スポイラーが脱落し、後続車両の妨げになる恐れがある。
- スズキ、「スペース」・マツダOEM「フレアワゴン」のエアチャージ仕様車のエンジン補機ベルトに不具合があるとして再リコール 14年2月4日～同年3月4日に生産した6901台  
18年11月15日付けで届出を行ったものだが、対象車両の選定に一部誤りがあった為、対象車両を追加し、再度リコールを行う。  
エンジン補機ベルトの構造が不適切な為、耐久性が不足しているものがある。その為、ベルトの共振によりベルトが破断し、オルタネータやウォーターポンプが停止して警告灯が点灯し、最悪の場合、走行中にエンジンが停止して再始動できなくなる恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、「Sクラス」6車種のエンジンコントロールユニット(ECU)に不具合があるとしてリコール 13年5月20日～18年1月29日に輸入した7254台  
ECUの制御プログラムにて、車両へ搭載する使用指示が不適切な為、失火検知の診断が正しく作動しないことがある。その為、不具合が生じていないにも関わらずメーターパネル内のエンジン警告灯(MIL)が点灯し、誤検知したシリンダの燃焼を休止させて、最悪の場合、排出ガスが基準値を超える恐れがある。
- UDTラックス、「クオン」の排出ガス飛散防止装置(尿素水ポンプ)に不具合があるとしてリコール 17年4月28日～18年6月1日に生産した5351台  
尿素選択還元型触媒システム(尿素SCRシステム)にて、尿素水ポンプ内ガイドスリーブの加工が不適切な為、ポンプ作動時の圧力によってスリーブ先端部に亀裂が発生することがある。その為、スリーブ先端部が破断し尿素水ポンプの機能が損なわれ、警告灯が点灯するとともに排出ガス中の窒素酸化物(NOx)の排出値が基準値を超える恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、「Cクラス」「Eクラス」計23車種の電動パワーステアリングに不具合があるとしてリコール 14年10月22日～19年8月24日に輸入した3432台  
電動パワーステアリングのステアリングラックのロックナットの製造機器管理が不適切な為、内部亀裂が生じているものがある。その為ロックナットが破損し、最悪の場合、ステアリングラックの動きが妨げられることで操舵不能になる恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、「CLS450 4MATIC」の電動クーラントポンプに不具合があるとしてリコール 18年1月29日～19年2月25日に輸入した1666台  
エンジンの電動クーラントポンプにおいて、電源配線の配線が不適切な為、配線がエンジンファンに接触することがある。その為、配線が断線し、電動クーラントポンプや48V電気システムが作動停止して、最悪の場合、エンジンがオーバーヒートする、または、エンジンを停止させると再始動できなくなる恐れがある。
- BMWジャパン、BMW「330e」等計6車種のエンジンコントロールユニット(DME)に不具合があるとしてリコール 15年10月20日～18年6月29日に生産した3740台  
DMEのプログラムが不適切な為、バルブトロニック(VVT)の機能に不具合が発生している場合、触媒の予熱時間が長くなる。そのため、触媒の暖機が完了するまでの間、排気ガスを十分に浄化することができず、排気ガス基準値を満たさない恐れがある。
- スバル、「フォレスター」のリアコイルスプリングに不具合があるとしてリコール 13年3月25日～15年10月20日に生産した6万6910台  
リアサスペンションのコイルスプリングにおいて、鋼材と塗装仕様との組合せが不適切な為、コイルスプリング下部とショックアブソーバーのスプリングシート部に石等が噛みこんで塗膜が損傷すると、コイルスプリングが腐食することがある。その為、腐食が進行し、最悪の場合、コイルスプリングが折損する恐れがある。
- スバル、「フォレスター」「XV」のブローバイガス還元装置(PCVバルブ)に不具合があるとしてリコール 18年7月3日～同年10月22日に生産した1万4433台  
ブローバイ還元装置にて、PCVバルブの材質が不適切な為、クランクケース接続部の耐久性が不足しているものがある。その為、接続部の破損により燃焼室にエンジンオイルが侵入し燃焼、マフラーから多量の白煙が発生して、最悪の場合、走行中にエンジンが停止する恐れがある。
- アウディジャパン、「Q5」等計6車種のリアフェンダー内側の樹脂製カバーが走行中に脱落する恐れがあるとしてリコール 17年8月3日～19年9月25日に輸入した6026台  
リアフェンダー内側樹脂製カバーの取付クリップの形状が不適切な為、走行振動等により取付クリップが緩むことがある。その為、クリップが外れ、最悪の場合、走行中に樹脂製カバーが脱落する恐れ。
- アウディジャパン、「A7スポーツバック55TFSIクワトロ」「A6 55TFSIクワトロ」のエアバッグコントロールユニットに不具合があるとしてリコール 18年7月21日～19年8月23日に輸入した1765台  
エアバッグコントロールユニットのプログラムが不適切な為、助手席側エアバッグ展開時に過度の展開力が発生することがある。その為、衝突時に乗員が負傷する恐れがある。